

四七日に付き参らす也。「夕方茶飯を製し、田中栄作夫婦并びに久保万治妻たけへ遣わす。右の者共は秋露格別世話に成り候者故也。其の外は一円樽にも及ばざる也。

○十二日、癸酉、晴れ。朝涼風多し。午後炎熱燬(や)くが如し。「朝例時出勤、九時過ぎ退く。「夕弓術お相手に罷り出る。「夜一緒内其の外の寺々へ平次郎参らせ、燈(ひ)を点す也。

【頭書】十二日／処暑節

○十三日、甲戌、晴れ。炎蒸最も酷烈。汗漿水(しょうすい)の如し。夕より曇る。

「今日より例年の如くお役所休廢也。夕御機嫌窺いの為め罷り出る。「夜西向寺・妙慶院へ参り、燈を点す。寺僧へ壺封ずつ例の如く贈る也。其の外西蓮

97頁

寺・本照寺・興徳寺・興禪寺等へも参る也。「今朝夜前残りの寺々へ点燈に平次郎を遣わす也。「夜蒸熱美に堪えず。

○十四日、乙亥、暁来微雨。巳鼓前より風に成り稍(やや)甚し、未(ひつじ)後快雨。風罷(や)む。新涼の意あり。「夕御機嫌窺いの為め罷り出る。

○十五日、丙子、晴れ。蒸意強し。「朝お弓お相手として

罷り出る。「夕御機嫌窺いの為め罷り出る。「夜慈君・家小・幾三郎西向寺・妙慶院・興徳寺へ参る。留守中実五郎を頼み置く也。

「夜前は燈籠点しに平次郎参らす也。

○十六日、丁丑、晴れ。蒸氣強し。「朝例時出勤、九時頃退く。

「家来永野平次郎義去る弘化四年末年盆後より召し抱え、当年

にて九ヶ年相勤め候らえども、菟角(とかく)平日心得振り熟(つらつら)とこれ無く、猶此の度甚だ心得違いの儀これ有り候に付き、止むを得ず今日暇(いとま)遣す也。田中栄作を以て申し付ける。

「右の通りにて家来差し問え候故、妙慶院へ参詣能わざる也。「夕堀尾眠石

入来。平次郎暇の義堪忍は出来申すまじきやの旨咄しこれ有り候らえども、

已(や)むを得ざる趣意を申し、断りに及ぶ也。有り合わせの酒を出す。囲碁。

***** 萬津箱 ***** ちりまふしひまつぶし *****

P 92 4行目「田辺幾衛殿」を家乗で検索してみました

天保九年一月十七日夕、田辺氏制剛流居合御稽古始、田辺幾衛殿・加藤栄守殿・中島右馬介殿被参、・・・・（以下稽古日多し）

この年田辺先代広（藤力）右衛門死去により幾衛家督、流派も継ぐ。

弘化二年五月卅日、田辺幾衛殿方旦那様（道博（のち周防））へ御組打御免許被差上候由、為挨拶罷出、天保七年申春より御稽古御始被遊、当年二而十ヶ年、無御懈怠御稽古被遊、斯御免許迄被為至候、乍恐御執心之程奉感、何分恐悦之至奉存候事也、

右の様に天保七年頃より東城浅野家では旦那様（道博（のちの周防））をはじめ田辺氏のもと制剛流を数日置きに稽古をしていましたが、嘉永元年道興が相続後は六丁目の方について行ったのでしょうか？あまり田辺の名は出て来ません。

今回は「田辺幾衛に居合道具を借りたい」との相談に彦右衛門は「六丁目様が留守故今は無理」と答えています。周防様の許可が要るのでしょうか。

- 芸藩輯要 田辺幾衛 切米取（槍術番外）天保9父藤右衛門家督
- 制剛流は組打ち（柔）と居合（剣）の流派の様です。（捕手・捕縄も）



（制剛流とは関係なし）

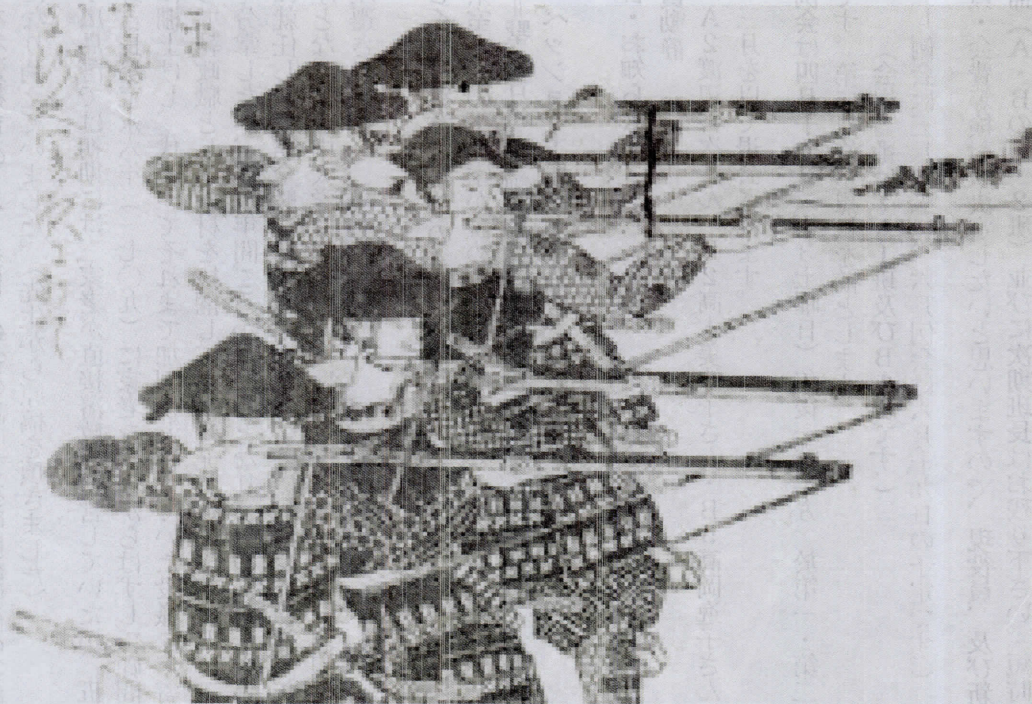


表4-10 東城浅野家歴代当主一覽

代	名前	当主年月	備考(続柄・前名・隠居名・法号など)
1	浅野内蔵允高英	元和 5(1619). ~寛文 4(1664). 12	三郎, 摂津守, 若狭守, 越前守, 幽山, 涼台院
2	浅野孫左衛門高次	寛文 4(1664). 12~延宝 7(1679). 10	高英子, 三郎, 高光, 臨調院
3	浅野伊織高尚	延宝 7(1679). 12~元禄15(1702). 3	高次子, 孫助, 晋照院
4	浅野豊前高方	元禄15(1702). 8~享保10(1725). 5	浅野綱長七男, 吉三郎, 繼善, 樹功院
5	浅野河内俊峰	享保10(1725). 7~宝暦 4(1754). 7	高方子, 隼之進, 越前, 大了院
6	浅野豊前高明	宝暦 4(1754). 9~明和 2(1765). 9	俊峰長男, 三郎, 海嶽院
7	浅野若狭道寧	明和 2(1765). 11~天明 6(1786). 11	俊峰二男, 権五郎, 高富, 近江, 龍泉院
8	浅野讃岐高景	天明 7(1787). 2~享和元(1801). 2	浅野忠綏男, 陳忠, 雅貴, 越前, 景德院
9	浅野虎人高通	享和元(1801). 4~文化 4(1807). 6	幽篁院
10	浅野孫左衛門高平	文化 4(1807). 9~文化12(1815). 8	龜吉, 信濃, 建徳院
11	浅野孫左衛門道博	文化12(1815). 8~嘉永元(1848). 8	堀田(宮川)正毅二男, 亮之助, 周防, 駿河, 正博, 高博
12	浅野河内道興	嘉永元(1848). 8~明治 2(1869). 7	高平長男, 大炊, 豊後, 勅典
13	浅野守之進道敏	明治 2(1869). 7~明治 2(1869). 8	浅野懋績六男, 守夫

『東城町史(原始・古代・中世・近世・自然環境)』、発行 III.1.5

広島市西区田方の海蔵寺(曹洞宗)

村上彦右衛門が城下から度々徒歩で参詣した東城浅野家の菩提寺・海蔵寺。2013年3月14日、古文書解読同好会の第2グループ有志7名が境内を探訪した。墓碑は五輪塔で、第10代浅野孫左衛門高平のみ円墳状の墓碑である。第11代の浅野孫左衛門道博墓には、村上彦右衛門・渡辺雅登・堀尾善太夫・佐藤益之丞などお馴染みの面々が石燈籠を奉獻していた。



鐘楼門
(文政9年再建、被爆建物)



海蔵寺本堂
(天保11年再建、被爆建物)



初代 浅野内蔵允高英墓
(涼臺院、寛文8年建之)



第3代 浅野伊織高尚墓
(晋照院)



第5代 浅野河内俊峰墓
(大了院)



第6代 浅野豊前高明墓
(海嶽院)



第10代 浅野孫左衛門高平墳墓(建徳院・天保12年建之)。村上彦右衛門が石燈籠を奉獻。石燈籠の竿に刻字。



第11代 浅野孫左衛門道博墓(澄源院)。村上彦右衛門・渡辺雅登・堀尾善太夫、佐藤益之丞が石燈籠を奉獻。竿に刻字。

【新字大三角】
(1) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(2) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(3) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

【新字大三角】
(4) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(5) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(6) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

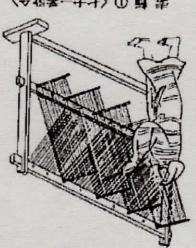
【新字大三角】
(7) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(8) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(9) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

【新字大三角】
(10) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(11) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(12) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

【新字大三角】
(13) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(14) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(15) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

【新字大三角】
(16) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(17) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(18) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

【新字大三角】
(19) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(20) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(21) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)



【新字大三角】
(22) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(23) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(24) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

【新字大三角】
(25) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(26) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(27) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

【新字大三角】
(28) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(29) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(30) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

【新字大三角】
(31) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(32) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(33) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

【新字大三角】
(34) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(35) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)
(36) 新字大三角 (Shinji Dai-san-gaku)

右衛門家来(若党)。文久三年七月に東城淺野家鉄炮組として二人扶持で召抱えられたが、慶応元年(一八六五)十月に、刀差組、勘定所請二石、東城御趣法掛となるまで村上家で奉公を続けた。

② 吉助の嘉永元年不所存

○(弘化五年正月廿二日)「中津屋吉助昨夕来候者、同人義先年宮内村二而百姓良藏与申者養子二參、良藏者先年病死、養母者年若二而再嫁致候故、田地等者本家江預、寄親の方江掛り居、其後又中津屋江掛、近年者木挽を始、時々長州江働二參杯致居候へ共、何分兎角申分勝二而、荒働身二不応趣二而、此度志を替町家へ奉公致、辛抱致見申度与先達而參候節段々申聞、右二付尾道へも參、奉公口聞合候へ共、同所者却而辛抱六ヶ敷趣三島屋幸助も申候由二而、約ル所当所町方江奉公之方二相決し、此間松本玄順江頼置遣候故、此間一志在へ帰、何角取方付又々出来候也、依之今朝直二玄順方江參り候也

○(廿五日)「夕吉助来、先達而松本玄順方江參候処、南柴屋庄兵衛世話二而井筒屋忠八郎方江在付候之由也

○(七月廿三日)「夜吉助来ル、井筒屋之方当季より暇を乞、十日市古手店大杉屋何某方へ參候筈之由申也、此度も南柴屋庄兵衛方二而世話二成候由、慈君方内々与して庄兵衛へ酒切手一吉助へ附託投る也

○(八月四日)「松本玄順方手紙差越、吉助義三七月迄井筒屋忠八郎方二奉公罷在候処、同方トサクサ二而七月季より出、一志在中江參、就而者南柴屋庄兵衛も段々世話致、色々申聞も呉候由之処、約ル処別紙手紙差越候由二而、気毒致候との旨申来、右手紙者上方江登り一辛抱致試度、幸連も有之、直二登候間、其段当家へ申通くれ候様二との趣也、扱々案内之事、吉助義甚心得違、不埒之事共二候、慈君二も甚歎息被成候、乍然退而同人心を察見候処、兼而上方へ參候義者慈君呉々御差留被成候故、当家二而其訳申候者逆も志願不相達事を存、右様当家二而者一円申も不出、先達而來候節も十日市古手屋へ奉公在付候趣申候もの歎被案也、右手紙者先月廿五日付、当家へ來候者前日廿三日夕之事也

さにてはなし、朝政のとき朝敵の御膳のときそれ
を波下を云ふ。②古く、宮中に仕えた女房のう
ち、格式の最も下の者下腐(けろろ)。光台一覽二
凡の格式と思ふとききは、典侍は上腐内侍は中腐御
下は下腐なり。③下男、下女のこと。④おした
(御下)の若い衆(しゅ)に同じ。

⑧ とめきゅう：キウ(止交留交)名、最後にする交、
病気の再発を止めるための灸。浄瑠璃博多小女郎
波枕下「重て悪事をとめ灸(キウ)の、顔に焼がね入
瘋(やくろ)」。⑨

⑨ じじや(「自若」名)形動タリ。①大事に直而して
も、落ち着いて、態度の平常と変わらないさま。「泰
然自若」・翰林胡蘆集「九典宗明教師行状」八日早
晨、談笑自若、飽座遊矣。文明本館用集「自若」ジ
ヤク 賈誼曰峭函之固自若也。嶺山陰函谷関石不易
入義也。読本、権説弓張月前「一回」為朝はずこ
しも隠せる気色なく、自若(ジヤク)と云フツネノサ
マとしておはしける。二部一「族」森鷗外「権兵衛
が何事も無いように、自若(ジヤク)として五六歩
退いた時」・國語「越語下」自若(ジヤク)として五六歩
退いた時。②状態、形などがもとのままなさま。従前の状態に
変化のないこと。台記「久安四年一〇月一七日」其
疾自若、邪氣相加。説苑「説叢」物有盛衰、安得自
若。③(発音)④(発音)⑤(発音)⑥(発音)⑦(発音)⑧(発音)⑨(発音)

⑩ とんと(「副」)①疑問に思ったりためらったりすると
ころのないさまを表す副。すっかり。まったく。
きっぱりと。きれいきり。浮世草子「西鶴雛留
六二」夫(と)とが抱て難波橋の上からとんとはま
て死のかと。歌舞伎・成田山分身不動三「さる男に
私かんと惚れました」。浄瑠璃・傾城反魂香「中」是
をついでに葛城様を、とんと請出し奥様に定める。
古今集遠鏡「一」柳の青い色と桜花の白い色とをこ
きませて、とんと錦と見える。歌舞伎・お染久松色
説版「序幕」とんと杜若に生写しじや。②(否定表
現を伴って)その打消や、否定的な表現を強調する。
まるきり。一向に。該表本「根無草」後「わしらは
とんと呑込まぬわひの」。黄表紙・高漫行脚日記平
上「とき此お花、とんと存せすながら感心」。古今
集遠鏡「一」いつそ世の中にとんと故と云物がないな
らばも、松翁道話「上」野に浄るりかたて聞かす
様なもので、とんとわらわらぬ。腕くらへ永井荷風
四「この頃はもうとんとと怠りて居ます」。國語(1)トツ
トの転訛。トツトはイト(息)の転訛(松屋筆記)。②
ホトンド(発音)略(均庭雑録)。開園金也テントト

③ ① 『日本国語大辞典』(小学館)

閑集」的軍配兵法を主とした宇野伝は、早く
他伝に吸収され、加治伝から出た要門流と宇
佐美流とが永く存続した。要門流は加治景英・
景治・景明と続き、景明は正保ころ兵法家と
して山形藩主松平直基に仕え、沢崎主水景尚
(のち朝倉小軒景忠)に伝えた。主要兵書「武
門要鑑抄」は、謙信時代に編述されたとい
始撰・綱目・極撰・後撰を集成したものと伝
えるが、おそらく沢崎景尚の撰である。永
禄年間(一五五八―一七〇)の景英(融方受範)の
跋のあるものがあるが疑わしい。景尚は承応
元年(一六五二)江戸に出て本郷または芝に住
し、日本伝として要門流を教え、事実上の祖
となった。奥旨を得たものを剛弼といひ、高
松正春・佐久間景忠・長谷川景重・依田英信
ら要門四家のほかに、鈴木・武藤・巨・大河
原の四系統が諸藩に広く伝流した。のちに高
松系の高山正英は安永ころこれを正徳流と称
した。宇佐美流は謙信の軍師宇佐美良勝から
出た。良勝の孫良賢が家伝の兵法を伝え、寛
永ころ尾張にて神徳左馬助といひ、神徳流と
称し、江戸に出て宇佐美造酒正といひ兵法を
講じ、のち水戸藩主徳川頼房に仕え、謙信三
徳流として同藩に残った。寛永八年(一六三
二)辞任ののち和歌山藩主徳川頼宣に仕え、そ
の子定祐・孫祐冬から正矩・正純と続き、宇
佐美流として紀州に残った。良賢の女婿隅田
長勝が池田光政に仕え、岡山藩に続いたほか
は、あまり他には伝流しなかった。主要兵書
を「武経要略」といふ。

参考文獻 堀内信編『南紀徳川史』、正木輝
雄『兵家系図(写本)、加藤正治、道統系譜
列伝(同)、奥島景就「要門兵千鳥」(同)、日
夏繁高「本朝武芸小伝(武術叢書)」、羽鳥
耀清「池田豊直・青山敬直編(新撰)武術流
相録」(同)、石岡久夫編「越後流兵法(日本
兵法全集)二」、石岡久夫「日本兵法史」、
同「正徳流武学の伝統と教育」(国学談話会
編「国学論叢」所収)、同「越後流兵学の伝
統」(「国史学」二五・二六)、同「高山健貞
とその兵学思想」(「軍事史研究」五ノ二)

『国史大辞典』(吉川弘文館)

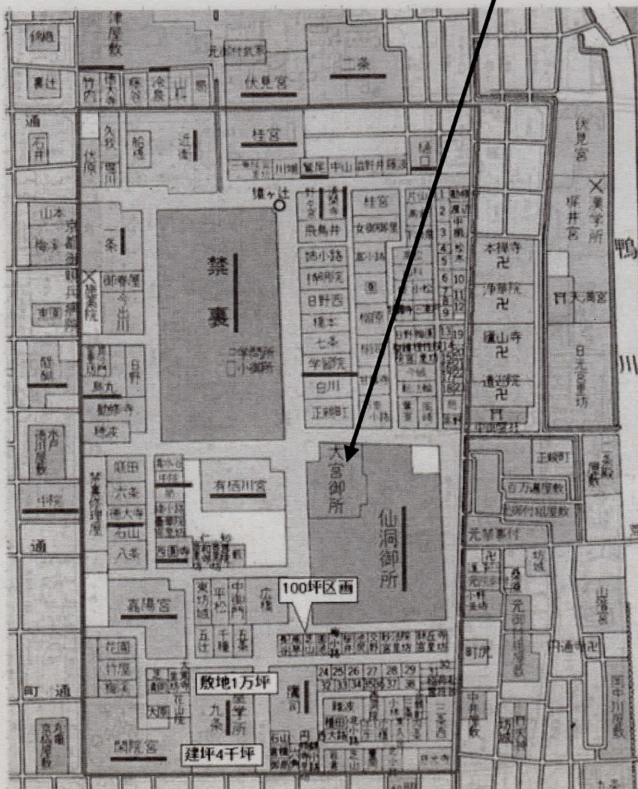
⑭ 正清院

正清院は廣白山淨安寺と號す、新川場町に在り、藩制時代には寺領二百石を附し、廣島城下淨土宗鎮西派十八箇寺の觸頭にして、藝藩内同宗の首座たりき、本尊は阿彌陀如来にして、世に所謂六阿彌陀の一なり六阿彌陀のこと、淨初め念寺の條下に記す、淺野但馬守長晟の夫人振姫徳川家康の第三女、元和三三年八月二十九日紀州和歌山に於て逝去せられ、法諡を正清院殿泰譽興安大禪定尼と云ふ、同五年長晟藝備二州に入國あり、同七年正清院殿の位牌を安置し給はんが爲めに、當寺を建立し、正清院と稱せしめ、甲斐國の僧乘譽周存を以て開山と爲し、寺領二百石を附せらる、寛永九年台徳院殿徳川二代の將軍秀忠の位牌を當院に安置し、爾後歴代將軍の靈牌を安置するの例となる、是を以て貞享四年六月四日藩命に依り、當院六世瑠譽の時、藝備領内淨土宗の首座に班せらる、當寺は初め中町に在りしが、明暦の大火に焼失し、後ち今の地に移され、假堂を建て、享保十三年九世興譽の時、本堂を再建落成す、然るに寶曆八年再び大火に罹り、本堂書院庫裡方丈、表門、鐘樓、門、釣鐘堂、稻荷社、其他の諸堂、廟宇等一時に灰燼に歸し、直ちに假堂二間に十一間半の長屋を建立せられしに、會、同十一年六月十二日九代將軍徳川家重徳川家重の薨去あり、其靈牌を當院に納めんが爲め、俄かに假木堂書院、方丈、其他の假建築を爲し、同年九月二十四日靈牌安置の式を行ふ、同十四年二月本堂再建の命あり、同六月、斧初の式を擧げ、翌年二年落成し、四月五日、入佛供養式を行ふ、天明二年十二世頼譽の時、御成の間、大書院、小書院、庫裡、鐘樓を再建し、文政元年七月十三世誠譽の時、釣鐘を鑄造せしが、其鐘は現存せず、維新後當院の寺料を廢止せられてより、維持困難となり、諸堂宇も荒廢せるが、まゝに委せしが、明治十五年十八世吉水融光三河國渥美郡眞如寺より轉じて住職と爲り、明治三十六年淺野侯爵家より金貳百五十拾圓を寄附せられ、本堂、屋根、西側の橋を修繕し、次で同四十四年より大正四年までに、同侯家より金八百圓を寄附せられ、本堂、南側の屋根を修繕し、堂内の裨建具全部の大修繕を爲し、大正三年一月新に表門の南方十六間の牆壁を築き、稍、舊觀を復せり、

『広島市史』社寺誌（大正十三年）

⑮ 嘉永七年に焼失した内裏の普請事業

⑰ 嘉永七年禁裏火災の火元（大宮御所）



⑯ 徳川家慶 とくがわいせよし

一七九三—一八五三（寛政五・五・十四—嘉永六・六・二十二）
 江戸幕府二代將軍。一代將軍家斉の次男。母は押田氏の女。幼名敏次郎。諡は慎徳院。一七九七年（寛政九）世子となり、西丸に入り、一八三七年（天保八）將軍職に就いたが、政治の実権はなお大御所家斉にあった。四一年家斉の死後、家斉の側近勢力を排して幕政を親裁し、老中水野忠邦を重用して天保改革を進めた。忠邦失脚後は阿部正弘を用いて海防問題の難局に当たったが、五三年（嘉永六）ペリーが浦賀に來航した直後に病没した。
 大口勇次郎

『日本史大事典』（平凡社）

← <https://3dkyoto.blog.fc2.com/blog-entry-5.html>

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

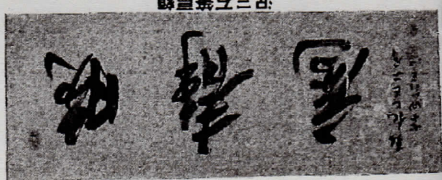
入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...



只三石筆寫額 広島城所藏

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

入主の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の... 豊吉の...

令和三年四月例会資料(三分後追い)
村上家乗安政二年七月一日〜七月十六日

一、先月の活字読みの確認点

なし

二、指摘・意見・質問・他

① 七月二日4行目『鯨船』

くじら「ぶね」(くぢら)【鯨船】 (デジタル大辞泉)

1 鯨を捕らえるのに使った船。特に、江戸時代の勢子船。《季冬》

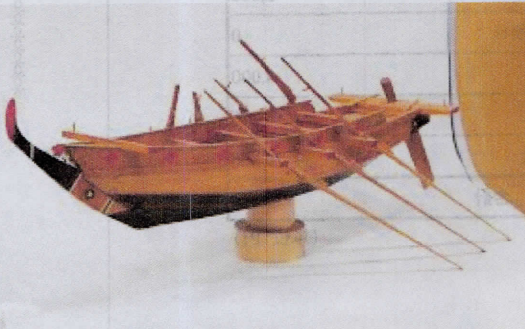
2 江戸時代、勢子船の敏捷性を生かすために、ほとんど同じ船型に作った小型の軍船。

3 《捕獲した鯨を引く捕鯨船に似ているところから》引き船のこと

勢子船…江戸時代の捕鯨用漁船の一種。鯨を網に追い込み、銚(もり)で突く作業をするため、通常八挺櫓の軽快な小船を用いる。



<http://www.kochinet.ed.jp/muroto>



<https://blog.goo.ne.jp/ikiplaza>

三、報告・お知らせ

◆ 会員動静

退会 A1 小熊尋子さん、A4 脇田義昭さん、B2 坂本和生・三田達男

さんが三月を以て退会されました。

◆ 今月は席移動月です各班机3台前に移動してください。最前列の班は

後列に移動願います

蜜にならぬ様、参加人数の多い班は、後ろ2列の空席に数人御回りく

ださい。

◆ 役員(幹事・副幹事・会計・監査)を決定しました。

幹事 … A1 上田 靖夫

副幹事 … B1 和田 敏子

会計 … A2 磯部 義國

監査 … B2 安永真和子

一年間宜しくお願い致します。

◆ 先月例会での全体会に於いて決議致しました通り、今年度会費として

2000円を徴収する事と成りました。

◆ 次例会は五月十五日(第3土曜日)午後一時半方 於第一・第二研修

室です。第二研修室黒板を前とします。

当日の会場当番は、A2班及びB2班です。

六月例会は六月十九日(第3土曜日)の予定です。

七月例会は七月十七日(第3土曜日)の予定です。

◆ 次ページに令和2年度収支報告、並びに当年度予算の概略を載せました。

コロナ(かからない)(うつさない)…入場前の検温・手指消毒にご協力願います。会場ではマスク必須。大声での会話は慎みましょう。